

第 42 回宇宙政策委員会における委員からのコメント

< 宇宙状況把握 (SSA) >

- ・ 宇宙状況把握 (SSA) については、宇宙基本計画で SSA 関連施設及び防衛省や JAXA を始めとした関係政府機関等が一体となった運用体制を平成 30 年代前半までに構築する、と記載されている。今後検討するに当たって、運用体制なり、日本全体としての SSA の取りまとめ機能をどのように定義しておくか、たとえば防衛省の SSA における役割を明確化しておかないと、光学及びレーダの地上施設の運用についての議論ができない。平成 30 年代前半と言わず、前倒しで行うべき。

< 先進光学衛星・先進レーダ衛星 >

- ・ 衛星リモートセンシングに関連して、宇宙基本計画では、「衛星によるリモートセンシング全体について、安全保障・公共・産業等の各分野における利用ニーズを明らかにした上で、これに対応するために必要となる衛星の使用、運用方法及びデータの活用可能性等について継続的に検討を行い、以後のプロジェクトに反映していく仕組みを構築する」とあり、中間取りまとめでは、「政府全体として利用ニーズを踏まえた衛星開発を行うべく、宇宙政策委員会における評価・検証の取組を平成 27 年度から開始する」と記載されている。

まず思い浮かぶのが先進光学衛星及び先進レーダ衛星であり、それぞれ今年度及び来年度に開発に着手する予定になっているが、まさにそういう時期に来ている。安全保障、公共・産業等の利用ニーズの観点、データの継続性、安全保障と科学技術・産業基盤の有機的サイクル等の様々な観点から、先進光学衛星及び先進レーダ衛星のフォローアップが重要である。

< 防災 >

- ・ 衛星リモートセンシングの利用ニーズの掘り起こしについて、昨今の防災関連の国内外の動きを見ていると、社会的なニーズとして宇宙からのリモートセンシングを防災の現場で活かしたいというニーズは強い。防災関係についてはより深掘りするなり、方向性付けを行うなり、といったことをしていくべきではないか。

< 調査分析・戦略立案機能の強化 >

- ・ 調査分析、戦略立案機能の強化について、拠点として誰が責任を持って情報を集約していくかについて、検討状況はどうか。知見や経験がたまっていく仕組みを作らないといけない。

< パブコメ案全体 >

- ・ 工程表の改訂案は、パブリックコメントに出す際には、見え消しにするなど、どこが改訂されたのかをわかりやすくすべき。

以上